

では *C. acerina* と *C. japonica* の袋果は花柱が短く真すぐりのび、この袋果に出来る種子は常にミカンの袋状の形で厚みがあり表面に翼は無い。これに対し、他のすべての種、即ち *C. foetida*, *C. simplex*, *C. dahurica* 及び *C. heracleifolia* の袋果は花柱が細長くて曲っており、この袋果に出来る種子は常にやや平らな橢円形で多くの薄い翼がおおっている。アメリカ産の5種にも同様な2型が見られた。そこでこの2型の種子の成長の過程を追って比較すると、初期のうちは両方の種子とも前者の種子の「ひな型」であり、前者はそのままの形で成長し、後者はやがて翼が出て平らに変ってゆくことが分った(Fig. 1)。以上の事実及びその他の特徴を考えあわせると、後者の種子と袋果を持つ群(Sect. *Cimicifuga*)は前者の種子と袋果を持つ群(Sect. *Pityrosperma*)から分化したものと思われる。また花弁の形(Fig. 3)は、特にSect. *Cimicifuga*に属する種では非常に変異が多いが、中でも *C. dahurica* の花弁は2裂片の先が薬に似た袋状であり、雌雄異株のものが多いことからも特殊化した種と思われる。

細胞学的には前報でヒマラヤの *C. foetida* に4倍体のあることを報告したが、それ以外は今回しらべた限りすべて2倍体( $2n=16$ )であった。ことに日本産の3種(*C. acerina*, *C. japonica*, *C. simplex*)については多くの場所から、形態的に色々変異のあるものを集めてしらべたが倍数体は見られなかった。核型については *C. acerina* と *C. japonica* はすべての変種を含めて日本中同じ核型を示すが、*C. simplex* では1組の染色体の核型にわずかではあるが3とおりの変異のあることが観察され、便宜上、ABCの3型に分けた。そのうちA型のものは日本の北部(福島県以北)にのみ分布し、全体大型で、葉の表面は全く無毛である。B型のものは関東以西の温暖な低地に多く分布し、全体に小型で葉の表面にはかなり密に毛がはえている。C型は核型の上ではA型とB型の中間型を示し、分布はやはり関東以西であるが、B型の生えているところよりは高度の高い山地に見られた。C型のものは外部形態的には変異が多く、B型やA型に見られる様なはっきりした特徴は見られない。この他、韓国産の *C. dahurica* と *C. heracleifolia* についても初めて観察したが、いずれも2倍体で、両者の核型はよく似ている。ユーラシア産の *Cimicifuga* 属は、4倍体の存在する *C. foetida* を除いては、多少の核型の変異はあっても、細胞学的にかなり安定していると思われる。

#### ○*Ludwigia* 属の外来品(浅井康宏) Yasuhiro ASAI: On *Ludwigia linearis* Walter newly introduced to Japan as an alien weed.

近年、日本へ侵入する所謂外来雑草の種類は、実に夥しいものがあり、枚挙にいとまがない程である。その侵入状態は、現在の交通、その他の事情から北アメリカを原産とするものが大部分を占めているが、しかしヨーロッパその他の原産で、北アメリカ

を経由し渡来するものも少なくない。従来、本邦へは数種の *Ludwigia* 属の外来品の侵入が、既に報告されているが、ここに更に一品の渡来を追加しておきたい。

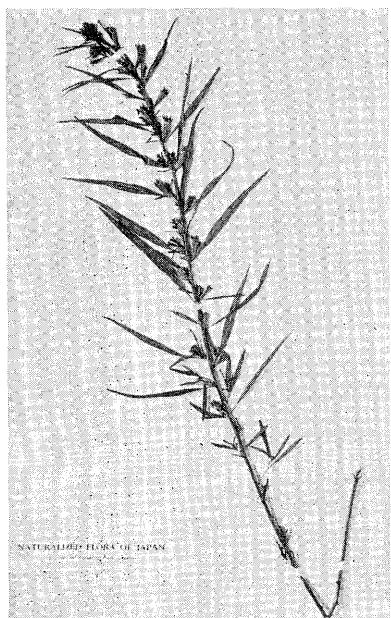


Fig. 1. A branch of *Ludwigia linearis* Walter from Mie Pref., western Honshu, Japan.

各地に分布、定着しつつある *Ludwigia decurrens* Walter と同様に拡まるものと思われる。なお、和名は草姿に因みホソバタゴボウ（ホソバチョウジタデ）としたい。終りに、本属についての貴重な文献を貸与され、御教示下さった東大理学部の原 寛教授及び資料を提供された太田久次氏に対し、厚く御礼申上げる次第である。

In the present paper, the writer reported from Japan a new alien weed, *Ludwigia linearis* Walter of N. American origin. The plant was collected for the first time from Mie Pref. of W. Honshū in 1966. (東京歯科大学)

本種は草丈 60 cm~1 m 許に達する多年草で、多少分岐する。葉は写真に見られるように線状披針形で互生し、長さ 6.0~6.5 cm、幅 3~5 mm 許。花は葉腋に着き、花弁は黄色。萼片は長さ 3~4 mm、蒴果は短円柱状で 1 cm 内外。

周知の通り、チョウジタデ属 *Ludwigia* (*Jussiaea*) については、原 寛博士 (1953) 及び P. H. Raven (1963) らの詳細な研究があり、種々論議されているが、筆者は一応本種を *Ludwigia linearis* Walter に当てる。原産地は北アメリカで、東京大学理学部植物学教室の腊葉庫には *L. linearis* のラベルの貼布された外国産の標本が数枚所蔵されており、比較、検討することが出来た。文献によれば元来、低湿地を好むもので、原産地では特に海岸附近の泥炭地、沼地に多く生ずる由。本品は長年、三重県の帰化植物調査に活躍しておられる太田久次氏が 1966 年 10 月 9 日、鈴鹿市白子町で採集されたものである。本種も将来、我国の低湿地の雑草として、既に